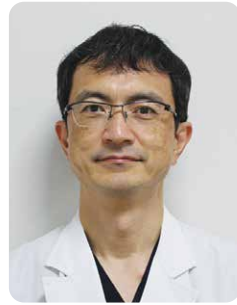




教えて、吹田市民病院のお仕事

第2回 薬剤部でのお仕事

第2回は、「薬剤部」を紹介します。診療や治療を医師や看護師をはじめとする医療スタッフとともに支えている薬剤師の「お仕事」を紹介していきます。



かつうら まさと
勝浦 正人
(薬剤部長)

薬剤部QR



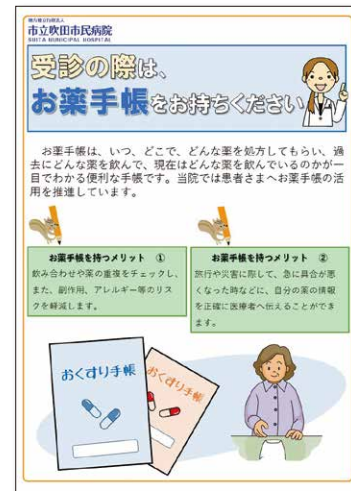
薬剤部の仕事内容について

主に入院患者さんのお薬について、以下のような仕事をしています。

- ①医師から患者さんに処方されたお薬を、さまざまな角度から問題がないか確認し、調剤、調製（注射の抗がん剤）をしています。
- ②お薬の正しい服用方法や使用方法、注意事項、副作用などの情報を患者さんにご説明しています。さらに、患者さんご自身の状態（アレルギーなど）や飲み合わせ（相互作用）などを考慮し、お薬の有効性や安全性が最大限に発揮できるよう医師に提案しています。

お薬の説明を行う際には、できるだけ患者さんがわかりやすいように説明し、ご理解・ご納得いただけるよう心がけています。また、薬剤師が調剤・調製したお薬は、最終的に患者さんに投薬・投与されることとなりますので、間違いがないよう常に緊張感をもって取り組んでいます。

入院患者さんへの対応以外にも様々な場面でも薬剤師が活躍をしていますので、記載のQRコードからご覧ください。



「お薬手帳」に係るポスター

薬剤部でのやりがいについて

病院で働く薬剤師のやりがいの1つは医師や看護師をはじめ、院内の様々なスタッフと連携し、患者さんにとって最良の医療を提供できるように薬剤師の専門的な観点から関わりをもてることです。結果として、入院されていた患者さんが元気になり、笑顔で退院していく姿を見ることができたり患者さんやご家族から感謝されることがあるとさらにモチベーションが上がります。

また、様々な院内スタッフと関わり、コミュニケーション能力を高めることで、お互いの信頼関係を構築できることも大きなやりがいの1つです。



薬剤部集合写真

薬剤部として目指す職場について



薬剤師免許という国家資格を得た責任と病院薬剤師が今後も必要とされる職業であり続けること、それら両方を担保するためには、常に成長し続けることを職員全員が意識する職場であることを目指しています。

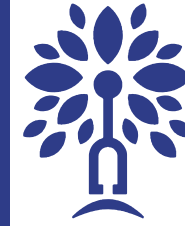
有効で安全な薬物療法を提供できるよう専門的知識の習得と技術の向上に努めることで、患者さんや院内スタッフに貢献できる職場を目指しています。

また、患者さんとのコミュニケーションを大切にする意識を持ち、患者さんに安心してお薬を使用できる病院にしたいとも考えています。

平素より吹田市民病院だよりをご愛読いただきありがとうございます。
ご意見がございましたら市立吹田市民病院までご連絡ください。

●編集・発行 市立吹田市民病院 広報委員会

吹田市民病院 だより No.86



〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号
TEL (06)6387-3311
FAX (06)6380-5825
メール shomu@mhp.suita.osaka.jp
ホームページ
https://www.suitamhp.osaka.jp



「食べる」ことの大切さ

加齢に伴い、舌の運動機能や噛む力、唾液の分泌等の機能が低下していくことから、食べ物を飲み込む能力が低下してしまいます。

このような状況になると最悪の場合、肺炎につながる可能性があります。

また、食事は栄養を補給するためだけではなく、「おいしかった」「お腹がいっぱいになった」という充実感を得る事ができ、「食事」という楽しみのある生活を送ることができます。

今号では食事にとって大切な「ものを飲み込む事【嚥下（えんげ）】」について特集します。



こんな症状ありませんか？

- ・食事中の咳き込み
- ・食後に痰が増える
- ・発熱を繰り返す
- ・食事に時間がかかり、



- ・疲れる
- ・錠剤の薬が飲みづらい
- ・お茶や汁物を飲まなくなった
- ・体重が減っている など

嚥下障がい
を
疑う症状です

誤嚥・嚥下障がいとは

食べ物や唾液を飲み込むことを嚥下（えんげ）と言い、口の中のものを上手く飲み込めなくなる状態のことを嚥下障がいと言います。

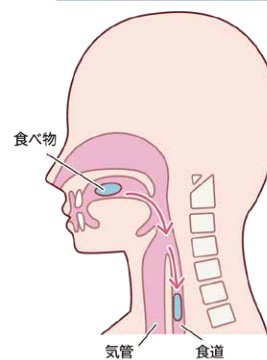
本来食べ物や唾液は胃へ送られますが、誤って気管へ入ってしまうことを誤嚥と言います。

この時に唾液や食べ物に含まれる細菌が気管を通して肺まで届き、中で感染が起こることを誤嚥性肺炎と言います。

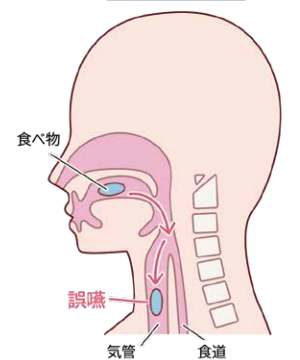
また、日本における死因の中でも誤嚥性肺炎は第6位となっており、嚥下障がい、誤嚥を予防することで元気に長生きをすることができます。

(参考:令和4年(2022)人口動態統計月報年計(概数)の概況 表7 死亡数・死亡率)

正常に嚥下している場合



誤嚥した場合



出典:illustAC

嚥下障がいの原因・検査

嚥下障がいの原因は、**形**（腫瘍、けが、炎症、食道狭窄）、**動き**（脳梗塞、神経疾患、加齢）、**食欲**（認知症、うつ病、神経性食思不振症）の大きく3つに分けられます。

この中から原因を探すには病院の検査が必要となります。具体的な検査方法として「嚥下内視鏡検査」と「嚥下造影検査」があります。

形

- ・腫瘍
- ・けが
- ・炎症
- ・食道狭窄

動き

- ・脳梗塞
- ・神経疾患
- ・加齢

食欲

- ・認知症
- ・うつ病
- ・神経性食思不振症

嚥下内視鏡検査

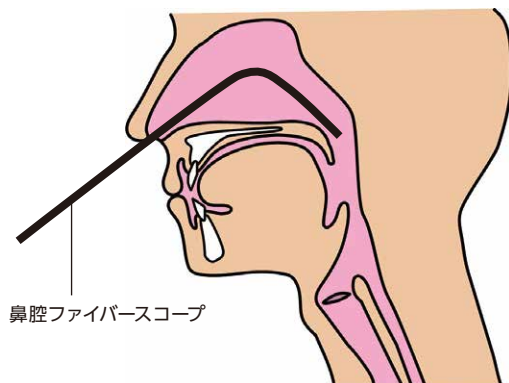


出典：えすていちゃん

嚥下内視鏡検査は鼻腔ファイバースコープという細いカメラを鼻からのどへ入れて、食べ物などを飲み込んでいる様子を観察する検査です。

確認する項目としては、「食べ物の残留の有無」、「誤嚥の有無」、などで、比較的簡便に検査ができ、直感的に分かりやすいことが特徴です。

鼻腔ファイバースコープを通すイメージ図



鼻腔ファイバースコープ

出典：illustAC

嚥下造影検査



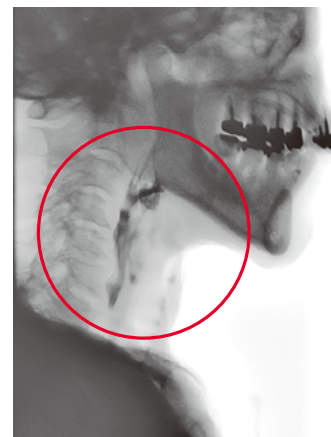
出典：えすていちゃん

造影剤を飲み込んでいる様子を撮影する検査です。

この検査は、飲み込みの瞬間が確認でき、誤嚥の有無が確認しやすいという点が特徴です。

嚥下内視鏡検査と併せて実施することでより詳しく検査を行うことができます。

実際に造影剤を飲み込んでいる様子



予防について

嚥下障がいになってしまうと日常的にできていた食事ができなくなってしまうので、未然に飲み込む力の低下を防ぐために、自宅でも簡単にしていただけることを紹介しますので是非実施してみてください。



● 食事をするときに気をつけること

食べる時の姿勢は座る姿勢が大切です。食べやすい姿勢として以下の点に気を付けてみましょう。

- ・背筋を伸ばしてあごを軽く引き、やや前かがみの姿勢になる
- ・背もたれのある椅子に深く腰掛ける
- ・テーブルの高さは腕を載せてひじが90度に曲がる程度
- ・体とテーブルの間はこぶし一つ分くらい開ける
- ・椅子の高さは膝が90度に曲がる程度
- ・足は床につける



出典：看護roo!

● 自宅でできる嚥下体操 嚥下障がい防止に効果のある体操を紹介します。

パタカラ体操

□全体の力を高めて、食事がスムーズにできる、しゃべりやすくなる、むせにくくなる等の効果が得られます。

- パ** 唇をしっかりと閉じた状態から「パパパパ」と言う **タ** 舌先を上あごにつけた状態から「タタタタ」と言う **カ** 舌の後ろを上あごにつけた状態から「カカカカ」と言う **ラ** 舌を丸めた状態から「ララララ」と言う



舌トレーニング

舌の力を高めて、ものを飲み込みやすくする、食べられるものの種類が増える、健康寿命につながる等の効果が得られます。



出典：リハツバメ

当院におけるがん診療について

当院は、がん医療水準の向上及び安心かつ適切ながん医療が選択できることを目的として大阪府が指定する「大阪府がん診療拠点病院」に認定されています。がんについて、当院ホームページにて解説をしていますので、記載のQRコードよりご確認ください。

